

武蔵野美術大学 × ハピラインふくい
産学協同プロジェクト



ハピラインふくい 駅舎利活用プロジェクト

2024.10.7(月) - 10.10(木)

8:30 ~ 17:00

福井県庁 1F ホール



武蔵野美術大学とハピラインふくいは、地域の活性化と駅舎の新しい活用方法を考える産学共同プロジェクトを実施しています。

今回は、私たち学生が考えた駅舎の新しいデザインや活用アイデアを展示します。

皆様のご意見を、ぜひアンケートでお聞かせください！

地域とつながる駅をつくる

このプロジェクトは北陸新幹線が開通し、新たに生まれた「ハピラインふくい」開業直後に始まった。そして、この鉄道の福井県内の駅舎を中心に周辺の文化を取り込みながら創造的な場が生まれる施設の計画を「武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科インテリアデザインコース」と「株式会社ハピラインふくい」との産学協同プロジェクトとして行った。地域の鉄道としてこれから歩みを始めるにあたり、駅舎は地域と鉄道を結ぶ重要な結節点となる。

第一フェーズとして2024年5月末～7月中の期間、現地調査、企画立案、内装設計を行った。

6月初旬に学生が1週間福井県に滞在し、現地調査を行った。「ハピラインふくい」の駅を中心に周辺環境、産業、人々の様子など、現地の人々にヒアリングを行いながら、地域の人々が行きたくなる、駅舎の利活用についての可能性を探った。

今回の展示では今までにない駅の使い方のアイデアが様々に展開されている。それは現地ヒアリングとデータ分析を重視しながらも、模型を作り、空間を把握しながら様々なスタディを繰り返す中で舞い降りたアイデアを、それぞれの物語を作るように編集したものである。

具体的な駅舎をベースとしているが、その利活用のアイデアとデザインの造形性は他の駅舎にも活用可能なものとなっている。

担当教員

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科
教授 伊藤真一
客員教授 岩佐十良
特別講師 原田周子(H.S デザイン)
助手 竹下早紀

出展学生

井上阿子 / 岩井怜菜 / 大谷日向子 / キム ギョンヒョン / 近藤亜衣
佐藤藍来 / 新郷愛奈 / 田村紗和 / 中原彩也香 / 藤井桃香 / 山川聖菜



武蔵野美術大学 × ハピラインふくい
産学協同プロジェクト



ハピラインふくい
駅舎利活用プロジェクト